

APSCC 2010 Conference & Exhibit に参加して

特別編集顧問 北爪 進

概要

2010年10月5～7日新宿 Hilton Tokyo の Convention Hall にて開催された APSCC 2010 Satellite Conference & Exhibition に参加する機会を得たのでその概要を報告する。今年の APSCC 2010 Satellite Conference & Exhibition での Main Theme は “Beyond Survival, It is Responsibility” であった。

Satellite Conference & Exhibition と称している Conference は3月にワシントン、6月に Commucasia シンガポール、8月末～9月初め ICSCC2010 Anaheim そして10月 APSCC と今年既に4回あった、APSCC は in Asia & Pacific に標準を絞っているところに特徴がある。アジアでも多様化しているユーザの要求と衛星オペレータとの間を埋めるビジネスも又本格的になって来たと感じられる。

APSCC 2010 Satellite Conference には 200 人の Speaker とそれを超える参加者があったと報ぜられている、しかし展示は約 10 ブースにとどまっていた。

Satellite Executive of the Year は SP JSAT の CEO & President である秋山社長の受賞となったことは世界第5位、アジアの No.1 Satellite Operator の実績であろう。

受賞者の秋山社長は Ariane Space 社スポンサーの Satellite Executive of the Year Award Presentation にて JSAT 創立以来の経緯と実績を語られ万上の拍手で称賛された。

世界的金融不安定時代に対して衛星通信オペレータや衛星開発メーカーがどのような状態であり、又どのように対応しようとしているのかの論点から、Main Theme の “Beyond Survival, It is Responsibility” としたのだろうか。



Fig-1:会場の Hilton Tokyo 4F Conference Hall での Display

Conference

Opening Session

会長 Dr. Nongluck の開会の挨拶に続いて Dr. Hiroshi Yamakawa, Secretary General, Secretariat of Strategic Headquarters for Space Policy, Cabinet Secretariat, Government of Japan と Dr. Masanori Homma, Executive Director, Space Applications Mission Directorate, JAXA の Keynote Address があった。

Dr. Hiroshi Yamakawa は今後の日本の宇宙開発基本計画に触れ次の 5 項目について述べられた。

1. Small Satellite & Rocket
2. Earth Observation Satellite
3. QZSS
4. IGS Project
5. Enhancement of the Scientific and Technological Capability (はやブサの Follow on)

Dr. Masanori Homma (JAXA) は Communications & Navigation Satellite System & Future と題して今後の日本における宇宙開発の重点的開発項目について述べられた。

1. 先ず QZS-1(Quasi-Zenith Satellite-1)の紹介から始まった、Positioning Accuracy を 10m から 1mに向上させる、この衛星の開発の前の Project として ADEOS-II/ALOS →ETS-VIII→QZSS と成果を引き継いでいることを説明された。
2. Communication Satellite Program について ETS-VI(1994 年)から始まり MT-SAT-2, Superbird, QTS, Multi Beam Technology を用いた WINDS、APAA(Active Phase Array Antenna.), Inter Satellite Link 等を採用した DRTS の実績を説明され現在 Next Generation DRTS の検討を実施していることを述べられた。

Future Technology として Large Scale Antenna と Ka-band 800Mbit の技術開発を示唆された。

両者共 QZSS の開発状況と今後の計画に触れられたのは偶然の一致であろうか、興味を持って講演を聞いた。



Fig 2-1 Dr. Nongluck 会長の開会挨拶



Fig 2-2 Dr. Yamakawa の基調講演

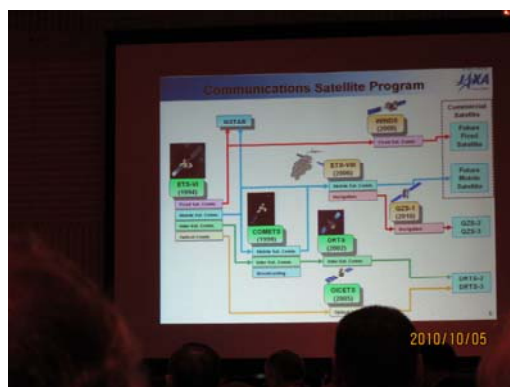


Fig 2-3 Dr. Homma の基調講演

Satellite Operators CEO Roundtable

10月5日のOpening Sessionの直後Asia-Pacific地域の衛星通信OperatorのExecutiveが参加しSatellite Operators CEO Roundtableが開催された。

パネリストはMesser Bill Wade, CEO, Asia Satellite Telecommunications Co, Ltd. Yutaka Nagai, Senior Executive Vice President, SP JSAT Corporation. Dr. Nongluck Phinainitisart, President THAICOM PCL, Phil Spector, Intelsat Asia Global Operator, Young-Mo Kwon, Senior Vice President, Satellite Business Unit, KT-Corp., Tom Choi, CEO Asia Broadcast Corp. で構成されていた。

討論は衛星通信オペレータが現在遭遇している問題や、将来遭遇するであろう問題について、マーケットの最新動向と共に討議されていた。例えば

Satellite orbital slot の問題

Very specific price を要求する Asia の customer について

Operator 間の協力について・・・regulatory issue in satellite orbit

次期マーケットについて

衛星打ち上げロケットについて 等々

次期マーケットの主流はKa-bandでありSonyなどがアンカーテナント(user)となろうがAustraliaなどではUHFの需要もあると、一方JSATの永井さんが日本ではDTH Businessは地上ケーブルや光ケーブル等との競合で既に飽和状態であること今後は3D市場の開拓を目指すとの見解を示すと、Dr. Nongluckは東南アジアではDTHマーケットはこれからの市場として期待していると、このような討論からアジア・太平洋地域では地域によって需要の相違があることを示していた。

次期マーケット動向については、衛星通信での3D-TVやKa-bandなどNew Applicationの開発がオペレータにとって重要であるが、然しこの地域の特徴として日本とその他の地域によって需要内容が異なることが浮き彫りになった。

衛星打ち上げ手段であるロケットの価額について衛星価額と同様安価での調達が必要であるとの主張に対して、例えばSpace-Xの衛星打ち上げ事業参加については単に低価額のみならず信頼性確保の点で矢張りHeritageの重要さが話題になっていた。

衛星通信Operator間の協力についてはOrbit slotのregulatory issueにも絡んで、

Intelsat の Mr. Spector は既に SP JSAT との間で Horizon Project で協力関係にあること、今後アフリカ市場が新市場として重要 (Strong Demand Market) になってくると共に、Project 実現の為に Operator 間の協力が進展するであろうことを示唆した。



Fig-3 : Satellite Operator CEO 討論風景

“Corporate Social Responsibility”

この Session では Dr Nongluck Phinainitisart, President APSCC, Messer David Hartshor, Secretary General GVF, John Celli, President Space System Loral, Christophe Bauer, Vice President Commercial Sales, Space X の 4 人が参加し討論が行われた。

Session での討論内容はタイ国における衛星通信事業から学校への支援等の紹介、米国での従業員に対する福利厚生事業などの紹介で興味深い協議項目であった。



Fig-4 Corporate Social Responsibility

この他に

Satellite Manufacturers Roundtable

Asian Satellite Business Strategy

Military Satellite Communications

GPS Applications & Consumer Products

Earth Observation for National Security & Disaster Response

Satellite Applications for the Millennium Development Goal

等興味深いテーマが討議された。Opening Session でも取り上げられたテーマでもある官民協力プロジェクト “Economical Access to Space”の代表例として Hosted Payload Business Model が話題になったことは他の宇宙開発に関する Conference と同様であり今後のこの業界の趨勢かな、と感じられた。

Satellite Executive of the Year in Asia-Pacific

今年の APSCC Achievement Award の受賞者に SP JSAT の秋山社長が選ばれた。受賞の理由は “The dedicated contribution to the satellite industry of Asia-Pacific” となっている。2010 APSCC Award Dinner は Arianespace 社の sponsor で盛大に実施された。秋山社長は受賞の挨拶に、日本の民間衛星通信ビジネスの発展、1989 年に打ち上げられた JCSAT-1 号より SAJAC との合併、PerfectTV の立上げや Intelsat との Horizons-1 の共同運用、又 Sky Perfect Communications との合併そして SCC との経営統合を成し遂げた過去 20 年間の発展の経緯と今後の目標として DTH 事業と衛星通信事業を両輪とした Hybrid 経営による体質の強化を述べられた。



Fig-5: Mr. M. Akiyama, CEO and President APSCC Award (中央秋山社長)

展示会場

会場の関係か展示会場は小規模で10小間程度の出展であった。MHI, MELCO, SP JSAT COMSAT Technical Service, Orbital Sciences Corporation 等の衛星、ロケット関連会社は Luncheon, coffee break の Sponsor 提供となった、展示では欧州やアジアの Operator と日本から NEC が出展していた、Ariane Space が APSCC Award Dinner の Sponsor と会場ロビーで 30 Years Success の展示を行っていた。



Fig-6 展示風景(INTEGRAL SYSTEMS INC.)



Fig-7 SES WORLD 展示風景



Fig-8 展示風景 (NEC)



Fig-9: 会場ロビーでの参加者 (Messier, Spector and Elbert)



Fig 10: 会場にて 若い参加者達 (APSCC Achievement Award 聴講者)